# 米国農務省穀物等需給報告（2026 年 11 月 10 日発表のポイント）

令和８年 11 月 11 日
大臣官房政策課食料安全保障室

**米国農務省は、11 月 10 日（現地時間）、2026/27 年度の7回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通し等を発表した。その概要は以下のとおり。**
－2026/27 年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

## 1．世界の穀物全体の需給の概要（見込み）（※↑↓→は前月見通しからの増減）

① 生産量：29 億 4,956 万トン（対前年度比 2.4%減）↑
② 消費量：29 億 8,052 万トン（対前年度比 0.3%増）↓
③ 期末在庫量：7億 9,686 万トン（対前年度比 3.7%減）↑
期末在庫率：26.7%（対前年度差 1.1 ポイント減）↑

【主な品目別の動向】（※矢印横は 200 万トン以上の増減のあった国等。）

**小麦**：世界全体の生産量は、主にアルゼンチン、豪州、カザフスタン及びウクライナで上方修正されたことを受け、前月から上方修正された。アルゼンチン及び豪州は収穫期を迎えており、広範囲で好条件が続いていることから生産量が増加した。前年度からは減少する見通し。世界の消費量は、前月から上方修正され、前年度からも増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回り、前年度を下回る見通し。

1 生産量：8億 2,751 万トン（対前年度比 2.0%減）↑‥前年度に比べ、ｲﾝﾄﾞ、ｳｸﾗｲﾅ等で増加、米国、EU、ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ、ｶﾅﾀﾞ、ｶｻﾞﾌｽﾀﾝ、豪州、ﾛｼｱ、ﾌﾞﾗｼﾞﾙ等で減少
2 消費量：8億 2,955 万トン（対前年度比 1.0%増）↑‥前年度に比べ、ｲﾝﾄﾞ、EU 等で増加
3 期末在庫量：2億 8,082 万トン（対前年度比 0.7%減）↑‥前年度に比べ、ﾛｼｱ、ｲﾝﾄﾞ、ｳｸﾗｲﾅ等で増加、EU、米国、中国等で減少
期末在庫率：33.9%（対前年度差 0.6 ポイント減）↑

**とうもろこし**：米国の生産量は、単収が下方修正されたことを受け、前月から下方修正された。世界全体の生産量は、アルゼンチン、ブラジルで上方修正されたものの、米国、南アフリカで下方修正され、前月から下方修正された。前年度からも減少する見通し。世界の消費量は、前月から下方修正され、前年度からも減少する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回り、前年度を下回る見通し。

1 生産量：12 億 9,155 万トン（対前年度比 3.2%減）↓‥前年度に比べ、中国等で増加、米国、EU、ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ、ﾌﾞﾗｼﾞﾙ、南ｱﾌﾘｶ等で減少（前月に比べ、ｱﾙｾﾞﾝﾁﾝ、ﾌﾞﾗｼﾞﾙで上方修正、米国等で下方修正）
2 消費量：13 億 1,792 万トン（対前年度比 0.3%減）↓‥前年度に比べ、中国等で増加、EU 等で減少（前月に比べ、ﾌﾞﾗｼﾞﾙで上方修正、中国等で下方修正）
3 期末在庫量：2億 8,194 万トン（対前年度比 8.6%減）↑‥前年度に比べ、ｳｸﾗｲﾅ等で増加、中国、米国、ﾌﾞﾗｼﾞﾙ等で減少（前月に比べ、ｳｸﾗｲﾅ等で上方修正、米国等で下方修正）
期末在庫率：21.4%（対前年度差 1.9 ポイント減）↑

**コメ（精米）**：世界全体の生産量は、アルゼンチン及び豪州で上方修正され、前月から上方修正された。前年度からは減少する見通し。世界の消費量は、前月から下方修正されたものの、前年度からは増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回り、前年度を下回る見通し。

1 生産量：5億 3,319 万トン（対前年度比 2.3%減）↑‥前年度に比べ、ｲﾝﾄﾞ等で減少
2 消費量：5億 3,820 万トン（対前年度比 1.0%増）↓‥前年度に比べ、ｲﾝﾄﾞ等で増加
3 期末在庫量：1億 9,982 万トン（対前年度比 2.5%減）↑
期末在庫率：37.1%（対前年度差 1.3 ポイント減）↑

## 2．世界の大豆需給の概要（見込み）

米国の生産量は、ミネソタ州、アイオワ州、サウスダコタ州及びネブラスカ州の生産量増加を受け、前月から上方修正された。世界全体の生産量は、米国及びコロンビアで生産量が上方修正されたものの、ウクライナ、南アフリカ、EU 及びメキシコで下方修正され、前月からわずかに下方修正された。前年度からは増加する見通し。世界の消費量は、前月から上方修正され、前年度からも増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回り、前年度を下回る見通し。

1 生産量：4億 4,250 万トン（対前年度比 3.1%増）↓‥前年度に比べ、米国、ﾌﾞﾗｼﾞﾙ等で増加
2 消費量：4億 4,280 万トン（対前年度比 2.3%増）↑‥前年度に比べ、米国、ﾌﾞﾗｼﾞﾙ、中国等で増加
3 期末在庫量：1億 2,350 万トン（対前年度比 1.2%減）↓
期末在庫率：27.9%（対前年度差 1.0 ポイント減）↓

大臣官房政策課食料安全保障室 （03-6744-2368）

# 世界の穀物･大豆の需給動向

（米国農務省2026年11月10日発表）

**【穀物】**

（単位：百万ﾄﾝ）

| 項目＼年度 | 2024/25 | 2025/26（見込み） | 2026/27（予想） | 2026/27 前年度比（期末在庫率は「前年度差」） | 2026/27 前月差 | （参考）2012/13 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **全体** | | | | | | |
| 生産量 | 2,858.10 | 3,022.84 | 2,949.56 | ▲ 2.4% | 5.2 | 2,299.4 |
| 消費量 | 2,877.60 | 2,971.36 | 2,980.52 | 0.3% | ▲ 0.2 | 2,287.4 |
| 期末在庫量 | 776.35 | 827.82 | 796.86 | ▲ 3.7% | 9.0 | 480.3 |
| 期末在庫率 | 27.0% | 27.9% | 26.7% | ▲ 1.1 | 0.3 | 21.0% |
| **小麦** | | | | | | |
| 生産量 | 799.02 | 844.03 | 827.51 | ▲ 2.0% | 5.1 | 660.8 |
| 消費量 | 808.47 | 821.59 | 829.55 | 1.0% | 1.7 | 680.3 |
| 期末在庫量 | 260.42 | 282.86 | 280.82 | ▲ 0.7% | 4.8 | 180.6 |
| 期末在庫率 | 32.2% | 34.4% | 33.9% | ▲ 0.6 | 0.5 | 26.5% |
| **粗粒穀物** | | | | | | |
| 生産量 | 1,517.00 | 1,633.15 | 1,588.87 | ▲ 2.7% | 0.02 | 1,162.6 |
| 消費量 | 1,538.31 | 1,617.09 | 1,612.78 | ▲ 0.3% | ▲ 1.2 | 1,141.9 |
| 期末在庫量 | 324.07 | 340.13 | 316.22 | ▲ 7.0% | 2.9 | 176.1 |
| 期末在庫率 | 21.1% | 21.0% | 19.6% | ▲ 1.4 | 0.2 | 15.4% |
| **とうもろこし** | | | | | | |
| 生産量 | 1,234.96 | 1,334.72 | 1,291.55 | ▲ 3.2% | ▲ 2.2 | 903.3 |
| 消費量 | 1,253.19 | 1,322.10 | 1,317.92 | ▲ 0.3% | ▲ 2.6 | 880.6 |
| 期末在庫量 | 295.69 | 308.31 | 281.94 | ▲ 8.6% | 1.5 | 145.5 |
| 期末在庫率 | 23.6% | 23.3% | 21.4% | ▲ 1.9 | 0.2 | 16.5% |
| **コメ（精米）** | | | | | | |
| 生産量 | 542.08 | 545.65 | 533.19 | ▲ 2.3% | 0.1 | 476.0 |
| 消費量 | 530.82 | 532.68 | 538.20 | 1.0% | ▲ 0.6 | 465.2 |
| 期末在庫量 | 191.86 | 204.84 | 199.82 | ▲ 2.5% | 1.3 | 123.6 |
| 期末在庫率 | 36.1% | 38.5% | 37.1% | ▲ 1.3 | 0.3 | 26.6% |

**【大豆】**

| 項目＼年度 | 2024/25 | 2025/26（見込み） | 2026/27（予想） | 2026/27 前年度比 | 2026/27 前月差 | （参考）2012/13 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 生産量 | 428.23 | 429.26 | 442.50 | 3.1% | ▲ 0.2 | 268.9 |
| 消費量 | 412.13 | 433.05 | 442.80 | 2.3% | 0.6 | 265.4 |
| 期末在庫量 | 126.01 | 124.98 | 123.50 | ▲ 1.2% | ▲ 0.8 | 58.3 |
| 期末在庫率 | 30.6% | 28.9% | 27.9% | ▲ 1.0 | ▲ 0.2 | 22.0% |

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(November 10, 2026)「PS&D」

注：1）穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2）小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3）期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／消費量

4）年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば､米国では､小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)､コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5）在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6）（参考）は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7）なお、「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

# 米国の穀物･大豆の需給動向

（米国農務省2026年11月10日発表）

【穀物】　（単位：百万ﾄﾝ）

| 年度／項目 | 2024/25 | 2025/26（見込み） | 2026/27（予想） | 2026/27 前年度比（期末在庫率は「前年度差」） | 2026/27 前月差 | （参　考）2012/13 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **全体** | | | | | | |
| 生　産　量 | 452.42 | 507.12 | 461.15 | ▲ 9.1% | ▲ 4.0 | 353.0 |
| 消　費　量 | 359.89 | 378.73 | 373.90 | ▲ 1.3% | ▲ 0.5 | 317.1 |
| 輸　出　量 | 101.10 | 119.89 | 109.40 | ▲ 8.7% | ▲ 1.5 | 51.6 |
| 期末在庫量 | 67.34 | 82.93 | 68.75 | ▲ 17.1% | ▲ 2.0 | 44.2 |
| 期末在庫率 | 14.6% | 16.6% | 14.2% | ▲ 2.4 | ▲ 0.4 | 12.0% |
| **小麦** | | | | | | |
| 生　産　量 | 53.85 | 54.14 | 41.74 | ▲ 22.9% | － | 61.3 |
| 消　費　量 | 31.06 | 31.05 | 30.10 | ▲ 3.1% | ▲ 0.1 | 37.8 |
| 輸　出　量 | 22.56 | 24.71 | 20.41 | ▲ 17.4% | － | 27.5 |
| 期末在庫量 | 23.26 | 25.04 | 20.22 | ▲ 19.2% | 0.1 | 19.5 |
| 期末在庫率 | 43.4% | 44.9% | 40.0% | ▲ 4.9 | 0.2 | 29.9% |
| **粗粒穀物** | | | | | | |
| 生　産　量 | 391.51 | 446.42 | 414.41 | ▲ 7.2% | ▲ 4.0 | 285.3 |
| 消　費　量 | 323.53 | 342.46 | 339.10 | ▲ 1.0% | ▲ 0.4 | 275.5 |
| 輸　出　量 | 75.68 | 92.63 | 86.51 | ▲ 6.6% | ▲ 1.5 | 20.7 |
| 期末在庫量 | 42.37 | 56.03 | 47.26 | ▲ 15.7% | ▲ 2.1 | 23.5 |
| 期末在庫率 | 10.6% | 12.9% | 11.1% | ▲ 1.8 | ▲ 0.4 | 7.9% |
| **とうもろこし** | | | | | | |
| 生　産　量 | 378.27 | 430.90 | 403.71 | ▲ 6.3% | ▲ 3.6 | 273.2 |
| 消　費　量 | 311.24 | 330.78 | 329.71 | ▲ 0.3% | ▲ 0.6 | 263.0 |
| 輸　出　量 | 72.97 | 87.11 | 83.19 | ▲ 4.5% | ▲ 0.6 | 18.5 |
| 期末在庫量 | 39.40 | 53.22 | 44.67 | ▲ 16.1% | ▲ 2.3 | 20.9 |
| 期末在庫率 | 10.3% | 12.7% | 10.8% | ▲ 1.9 | ▲ 0.5 | 7.4% |
| **コメ（精米）** | | | | | | |
| 生　産　量 | 7.05 | 6.56 | 5.01 | ▲ 23.6% | － | 6.3 |
| 消　費　量 | 5.30 | 5.22 | 4.70 | ▲ 10.0% | － | 3.8 |
| 輸　出　量 | 2.87 | 2.56 | 2.48 | ▲ 3.1% | － | 3.4 |
| 期末在庫量 | 1.71 | 1.86 | 1.27 | ▲ 31.7% | － | 1.2 |
| 期末在庫率 | 20.9% | 23.9% | 17.7% | ▲ 6.2 | － | 16.1% |

【大豆】

| 年度／項目 | 2024/25 | 2025/26（見込み） | 2026/27（予想） | 2026/27 前年度比 | 2026/27 前月差 | （参　考）2012/13 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 生　産　量 | 119.05 | 115.97 | 124.48 | 7.3% | 0.3 | 82.8 |
| 消　費　量 | 68.84 | 75.59 | 78.76 | 4.2% | 0.1 | 48.6 |
| 輸　出　量 | 51.50 | 41.24 | 46.81 | 13.5% | 0.7 | 36.1 |
| 期末在庫量 | 8.84 | 8.58 | 8.17 | ▲ 4.8% | ▲ 0.4 | 3.8 |
| 期末在庫率 | 7.3% | 7.3% | 6.5% | ▲ 0.8 | ▲ 0.4 | 4.5% |

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(November 10, 2026)「PS&D」

注：1）穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。
2）小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。
3）期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／(消費量＋輸出量)
4）年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば､米国では､小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)､コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]
5）在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。
6）（参考）は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。
7）なお、「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

（参考１）

# 世界の穀物等の価格動向（2026 年）

●　小　　麦：5.91 ドル/ｂｕ（前年同時期の価格：5.28 ドル/ｂｕ）

【価格は、シカゴ商品取引所における 2026 年 11 月第１週末のセツルメント価格】

（史上最高値：14.25 ドル/bu(2022 年３月７日)）

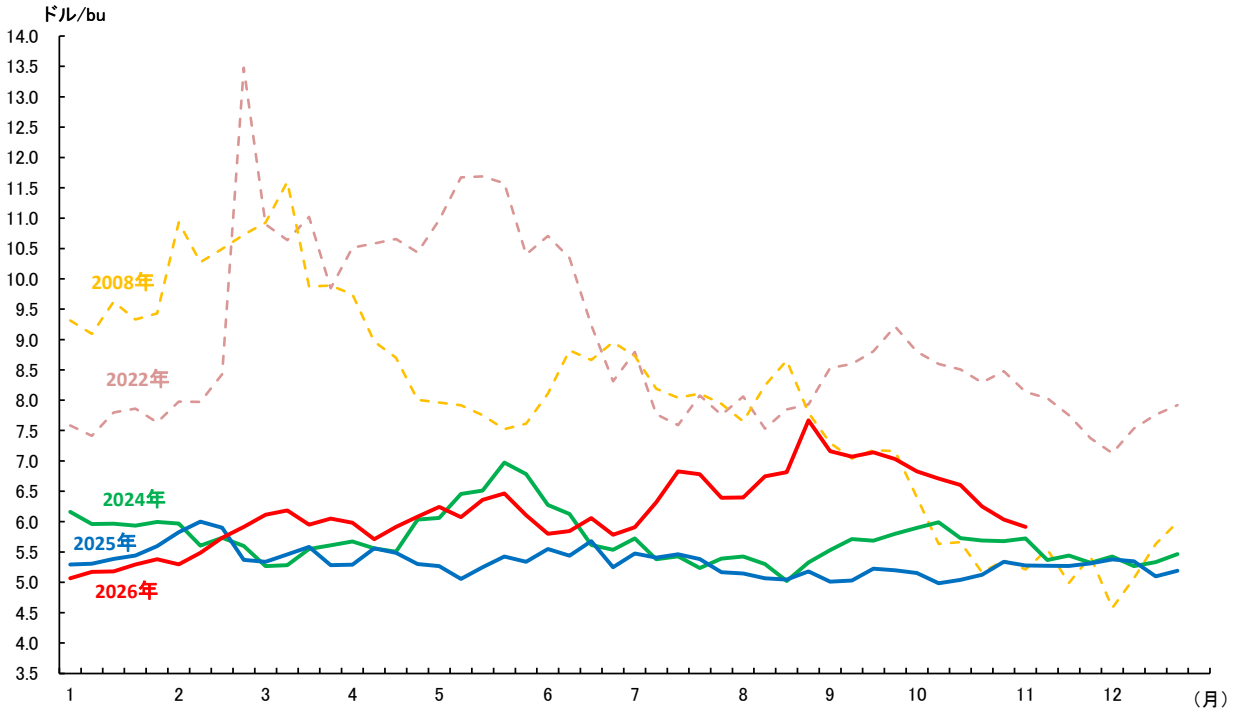
【１月～６月】１月から３月末にかけ、米国やロシアの寒波による冬小麦の作柄に対する懸念、中東情勢や米国の冬小麦生産地域の乾燥懸念等を受けて６ドル/bu 台前半まで値を上げた。４月に入り、米国の冬小麦生産地域の降雨等を受けて５ドル/bu 半ば近くまで値を下げたものの、５月 19 日にかけ、同地域の乾燥、堅調な需要、５月の米国農務省需給報告における 2026/27 年度の小麦生産量減少見通し、中国の農産物購入合意報道等を受けて６ドル/bu 台後半まで値を上げた。６月末にかけ、原油価格の下落、冬小麦の収穫開始・進展等を受けて５ドル/bu 台後半まで値を下げた。

【７月以降】７月に入り、米国の高温乾燥とフランスの熱波による作柄に対する懸念、ロシアとウクライナの対立激化等を受けて７ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、急騰による売り等を受けて値を下げ、７月末現在、６ドル/bu 台半ばで推移。

８月に入り、原油価格の下落、米国産春小麦の作柄改善等を受けて６ドル/bu 台前半まで値を下げたものの、黒海における混乱による供給懸念等を受けて値を上げ、８月末現在、７ドル/bu 台半ばで推移。

９月に入り、ロシア・ウクライナ和平への期待、とうもろこし価格の下落等を受けて値を下げ、９月末現在、６ドル/bu 台後半で推移。

10 月に入り、黒海での輸出混乱等を受けて７ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、ロシア・ウクライナ和平協議進展への期待、とうもろこし価格の下落等を受けて値を下げ、10 月末現在、６ドル/bu 台前半で推移。




注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2008年及び2022年と直近3年の価格の推移

● とうもろこし：4.42 ドル/ｂｕ（前年同時期の価格：4.27 ドル/ｂｕ）

【価格は、シカゴ商品取引所における 2026 年 11 月第１週末のセツルメント価格】

（史上最高値：8.31 ドル/bu(2012 年８月 21 日)）

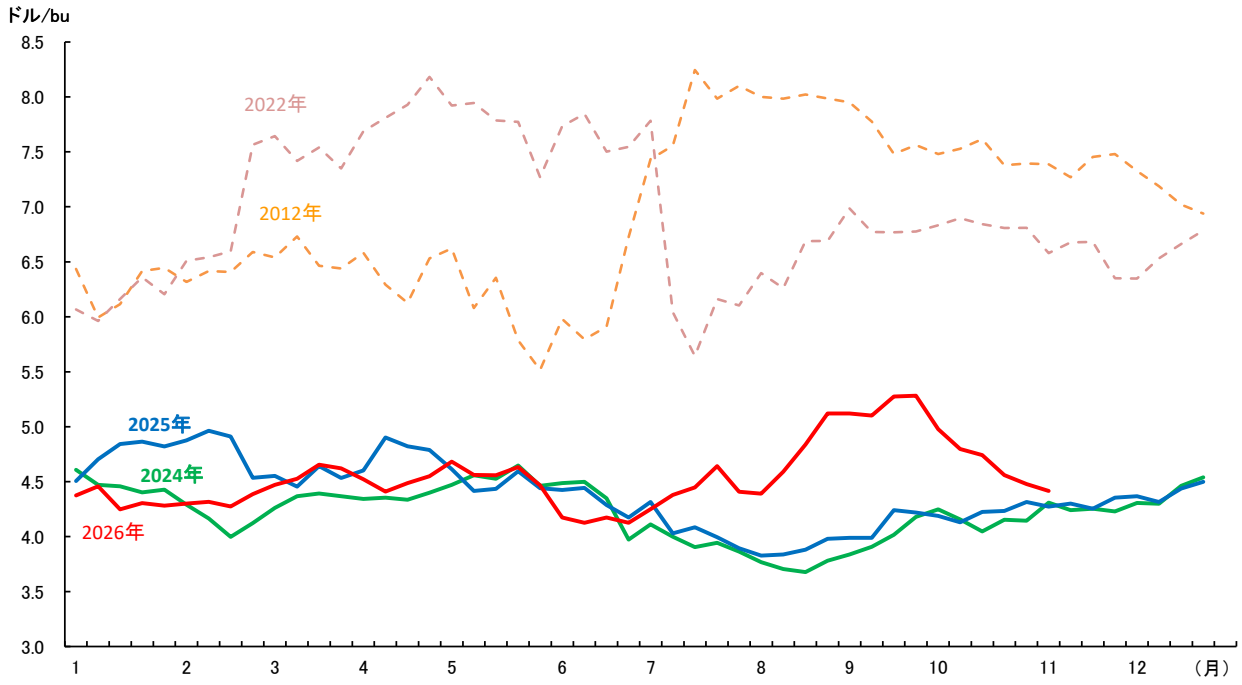
【１月～６月】１月に入り、米国農務省需給報告で米国のとうもろこし生産量が上方修正されたこと等を受けて４ドル/bu 台前半まで値を下げたものの、３月 19 日にかけ、米国産の堅調な輸出、中東情勢への懸念、資材価格高騰による米国の作付面積減少予測等を受けて４ドル/bu 台後半まで値を上げた。４月 13 日にかけ、イランへの攻撃延期等を受けて４ドル/bu 台半ば値を下げたものの、５月 18 日にかけ、米国の過剰な降雨による作付遅延懸念、中国の農産物購入合意報道、小麦価格の上昇等を受けて４ドル/bu 台後半まで値を上げた。６月末にかけ、原油価格の下落、米国の生育に適した天候等を受けて４ドル/bu 台前半まで値を下げた。

【７月以降】７月に入り、米国の高温乾燥とフランスの熱波による作柄に対する懸念、ロシアとウクライナの対立激化等を受けて値を上げ、７月末現在、４ドル/bu 台半ばで推移。

８月に入り、米国農務省需給報告で米国の 2026/27 年度の期末在庫量が市場予想を下回ったこと、黒海における混乱による供給懸念、米国の作柄悪化等を受けて値を上げ、８月末現在、５ドル/bu 台前半で推移。

９月に入り、米中首脳会談を受けた中国の需要拡大期待、降雨による米国の収穫遅延等を受けて５ドル/bu 台半ばまで値を上げたものの、米国の収穫進展、９月１日の在庫量が市場予測を上回ったこと等を受けて値を下げ、９月末現在、５ドル/bu 台前半で推移。

10 月に入り、米国農務省需給報告で米国の生産量が上方修正されたこと、米国の収穫進展等を受けて値を下げ、10 月末現在、４ドル/bu 台半ばで推移。




注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年及び2022年と直近3年の価格の推移

● コ　メ：505 ドル/トン（前年同時期の価格：370 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における 2026 年 11 月第１水曜日の FOB 価格】

（史上最高値：1,038 ドル/トン(2008 年５月 21 日)）

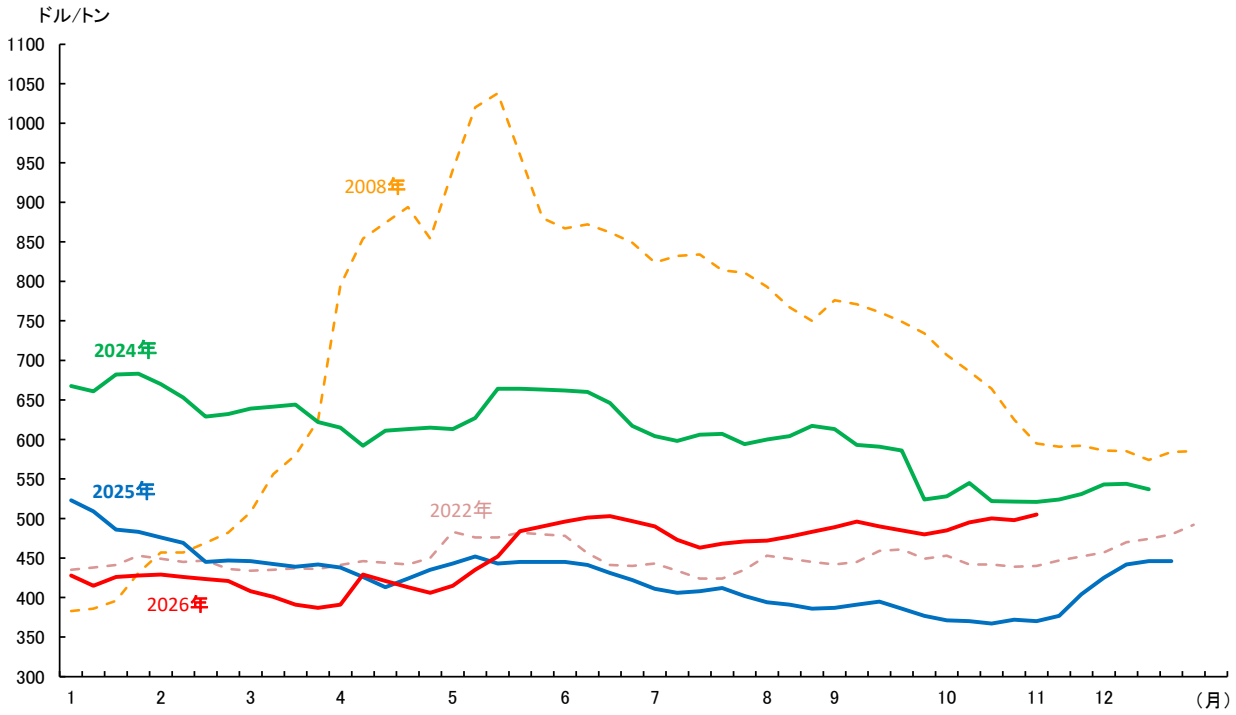
【１月～６月】１月から３月 25 日にかけ世界的な供給増及び需要の低迷等を受けて 380 ドル/トン台後半まで値を下げた。４月に入り、中東での紛争による燃料費の高騰等を受けて 420 ドル/トン台後半まで大きく値を上げたものの、米国農務省需給報告でタイの生産量が上方修正されたことやタイ米に対する需要減少等を受けて４月末現在、400 ドル/トン台半ばまで値を下げた。６月末にかけ、中東での紛争による燃料費の高騰、エルニーニョ現象の影響による次期作の見通しの不確実性を受けて 500 ドル/トン台前半まで値を上げた。

【７月以降】７月に入り、エルニーニョ現象の予測を受けた東南アジア諸国の備蓄需要が落ち着いたことを受けて 460 ドル/トン台前半まで値を下げたものの、タイバーツ高等を受けて値を上げ、７月末現在、470 ドル/トン台前半で推移。

８月に入り、アジア及びアフリカからの需要やタイバーツ高等を受けて値を上げ、８月末現在、480 ドル/トン台前半で推移。

９月に入り、タイバーツ高等を受けて 490 ドル/トン半ばまで値を上げたものの、需要の低迷、タイバーツ安等を受けて値を下げ、９月末現在、480 ドル/トン台で推移。

10 月に入り、エルニーニョ現象による干ばつリスクを懸念したアジアの主要輸入国の需要維持等を受けて値を上げ、10 月末現在、490 ドル/トン台後半で推移。




（注）タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100 %2等のFOB価格（各週水曜日）
グラフは、コメ価格が史上最高値を記録した2008年及びロシアがウクライナに侵攻した2022年と直近3年の価格推移。

● 大　豆：11.89 ドル/ｂｕ（前年同時期の価格：10.02 ドル/ｂｕ）

【価格は、シカゴ商品取引所における 2026 年 11 月第１週末のセツルメント価格】

（史上最高値：17.71 ドル/bu(2012 年９月４日)）

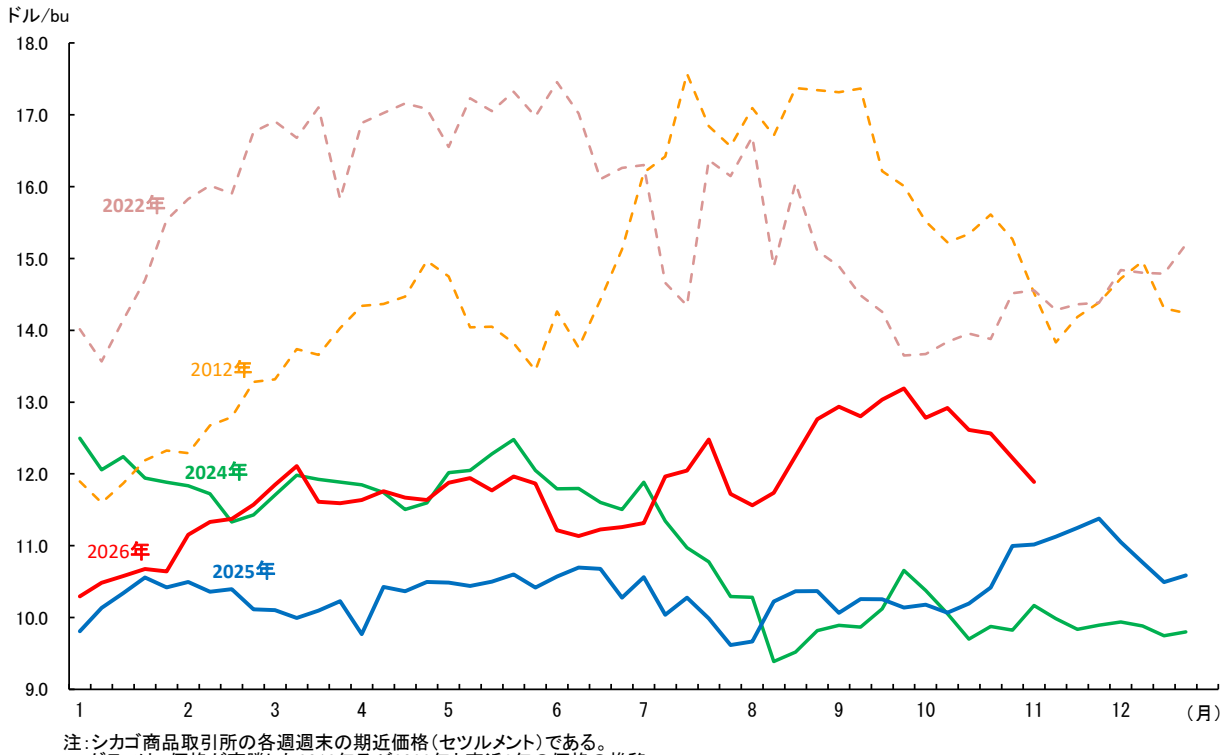
【１月～６月】１月から３月 12 日にかけ、中国の米国産大豆需要に対する期待、アルゼンチンの乾燥懸念、中東情勢への懸念等を受けて 12 ドル/bu 台前半まで値を上げた。その後、米中首脳会談延期による中国の米国産大豆の追加購入期待後退等を受けて 11 ドル/bu 台半ばまで値を下げたものの、５月 13 日にかけ、原油価格の上昇、５月の米国農務省需給報告で 2026/27 年度の米国の期末在庫量が市場予測を下回ったこと、中国の農産物購入期待等を受けて 12 ドル/bu 台前半まで値を上げた。６月末にかけ、米国の生育に適した天候や原油価格の下落等を受けて 11 ドル/bu 台前半まで値を下げた。

【７月以降】７月に入り、米国の高温乾燥による作柄に対する懸念、中国の大量買付け、米国農務省需給報告で世界の期末在庫量が市場予測を下回ったこと等を受けて 12 ドル/bu 台半ばまで値を上げたものの、米国の降雨予報等を受けて値を下げ、７月末現在、11 ドル/bu 台後半で推移。

８月に入り、原油価格の下落、米国の降雨等を受けて 11 ドル/bu 台半ばまで値を下げたものの、中国による買付け、作柄の悪化、原油価格の上昇等を受けて値を上げ、８月末現在、12 ドル/bu 後半で推移。

９月に入り、中国による買付け、米中首脳会談を受けた中国の需要拡大期待、降雨による米国の収穫遅延等を受けて 13 ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、中国が米国産大豆の輸入関税を据え置いたこと等を受けて値を下げ、９月末現在、12 ドル/bu 台後半で推移。

10 月に入り、米国の低調な収穫進捗等を受けて 13 ドル/bu 台前半まで値を上げたものの、米国の収穫進展、中国の低調な買付け等を受けて値を下げ、10 月末現在、12 ドル/bu 台前半で推移。




注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年及び2022年と直近3年の価格の推移。

（参考2）

1　為替レート（対ドル円相場）

単位：円/ドル

| 2008年 | 2009年 | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 103.39 | 93.61 | 87.75 | 79.76 | 79.79 | 97.71 | 105.79 | 121.09 | 108.77 | 112.13 | 110.40 |

| 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 108.99 | 106.73 | 109.89 | 131.57 | 140.59 | 151.59 | 156.49 | 151.96 | 149.18 | 144.39 | 144.75 |

| 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 2026年1月 | 2月 | 3月 | 4月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 144.50 | 146.71 | 147.67 | 147.94 | 151.28 | 155.12 | 155.88 | 156.71 | 155.07 | 158.64 | 159.28 |

| 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 2027年1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 158.34 | 160.71 | 162.55 | 158.74 | 156.41 | 157.96 | | | | | |

出典：　為替相場（東京インターバンク相場）　東京市場、中心相場　スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表　http://www.stat-search.boj.or.jp/
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2　海上運賃（フレート）

単位：ドル/トン

| 2008年 | 2009年 | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 93.65 | 50.71 | 63.59 | 54.88 | 49.18 | 46.63 | 44.35 | 30.30 | 27.92 | 38.48 | 46.42 |

| 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 45.01 | 38.28 | 65.79 | 60.71 | 48.61 | 50.33 | 40.33 | 40.41 | 42.37 | 43.29 | 43.93 |

| 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 2026年1月 | 2月 | 3月 | 4月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 45.30 | 51.06 | 50.44 | 53.84 | 50.87 | 51.05 | 47.68 | 46.46 | 49.14 | 53.11 | 54.16 |

| 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 2027年1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 60.07 | 56.89 | 59.71 | 60.20 | 60.93 | 59.39 | | | | | |

出典：　米国(ガルフ)－日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates,「World Grain Statistics」,「IGC Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日の価格の平均値。

3　原油価格（WTI：米国ウエスト・テキサス・インターミディエート）

単位：ドル/バレル

| 2008年 | 2009年 | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 99.65 | 61.80 | 79.53 | 95.12 | 94.21 | 97.97 | 92.91 | 48.76 | 43.47 | 50.85 | 64.90 |

| 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 57.04 | 39.34 | 68.08 | 94.33 | 77.61 | 76.63 | 75.74 | 71.53 | 68.24 | 63.54 | 62.17 |

| 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 2026年1月 | 2月 | 3月 | 4月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 68.17 | 68.39 | 64.86 | 63.96 | 60.89 | 60.06 | 57.97 | 60.04 | 64.51 | 91.38 | 100.32 |

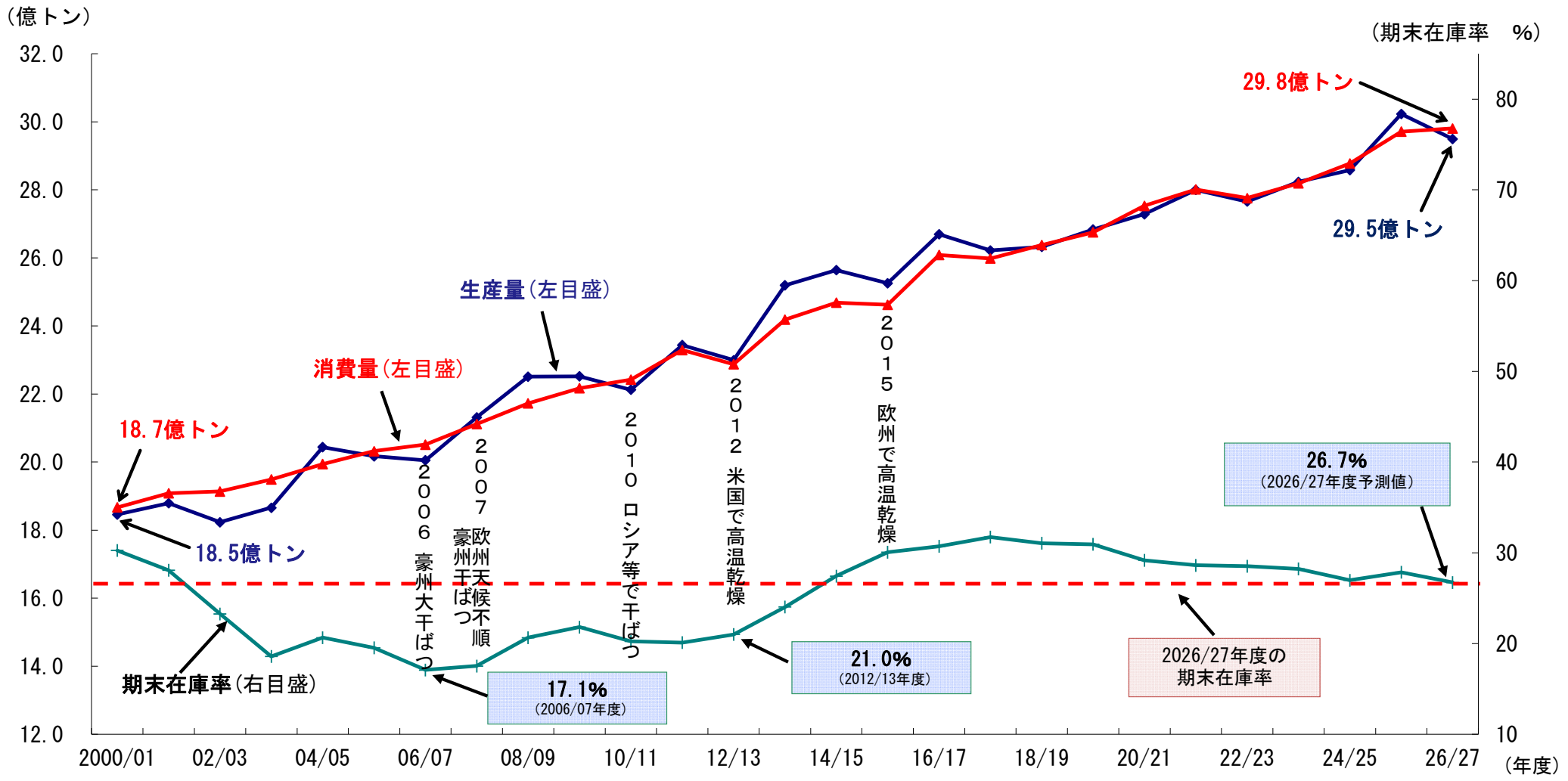
| 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 2027年1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 102.13 | 84.81 | 80.46 | 83.90 | 97.31 | 11/11現在未公表 | | | | | |

出典：　内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ　-月次アップデート-」。但し、2024年12月以降は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の月次データ。また、年別の2024年以降は同Reportの年次データ。

# 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

○ 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2026/27年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
○ 2026/27年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、26.7%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

## □ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移




資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(November 2026)、「PS&D」
（注）なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。